

土木学会創立 100 周年記念式典が、国内外から多くの関係者の参加の下に開催されることを、誠に喜ばしく思います。

土木学会は、大正 3 年に工学会から分離、独立し、土木工学を専門とする社団法人として創立されました。以来 100 年、国民生活や経済活動を支える社会基盤施設の整備に、産学官の皆さんが協力して、土木工学を通じて貢献してこられました。この間、今日の豊かで安全・安心な社会を作るため、幾多の困難を乗り越えてこられた多くの方々の多大な努力に対し、心から敬意を表します。

歴史をたずねると、私たちの祖先が国をつくり上げる中で、土木技術が大きく貢献したことが分かります。日本においても、一例として、近世の「利根川の東遷」と呼ばれる治水事業が挙げられます。これは、徳川家康により始められ、東京湾に注いでいた利根川を順次東に導き、最終的には太平洋に至るまで川の流れを切り替えた事業です。この事業により、江戸が洪水から守られただけでなく、新田の開発や舟運路の確保などが実現し、江戸の発展の基礎が築かれたことは間違いありません。

平成 23 年 3 月の東日本大震災から 3 年半余りがたちました。土木学会は、震災の発生直後から、学術調査団を被災地に派遣し、地震や津波による土木構造物の被災状況を調査されました。その調査結果を多くの提言として発表し、被災地の復旧・復興に貢献されていると聞いております。

現在、南海トラフ地震や首都直下地震など、大きな地震の発生が懸念されています。また、地球規模での環境問題や社会基盤施設の老朽化など、日々の生活にも関わる大事な問題もあります。これらの点からも、持続可能な社会の実現に向けて、土木工学に携わる関係者の皆さんの積極的な取組に期待します。

終わりに、創立 100 周年に当たり、土木学会が土木工学を通じて、人々の豊かで安全・安心な暮らしのため、より一層貢献していかれることを願い、記念式典に寄せる言葉といたします。